

1 くまもと「親の学び」プログラムとは？

このプログラムは、乳幼児期の子どもをもつ保護者をはじめ、「親の学び」をスタートする保護者を対象とした家庭教育の参加体験型講座を進行するための解説書です。

参加体験型講座では、保育所や幼稚園職員、乳幼児健診を行う保健師など、子育て支援に関わっている人たちが、進行役（ファシリテーター）となります。

参加体験型講座で、進行役は、プログラムを通して、一方通行の講座ではなく、受講者の気づきをサポートしつつ、参加者に伝えたいメッセージやねらいを明確にして、一緒に講座をつくりあげていこうとする気持ちが大切です。

そのためには、参加者の人数、参加者の年齢構成、講座設定時間等に応じて、アレンジして活用してください。

このプログラムを通して、子育てを行っている保護者が、自信をもって、健やかな子どもを育てていこうという意欲を高める一つの手がかりとなれば幸いです。

プログラムは基本となる展開例等を示しています。それぞれで実践していただき感想等をいただければ幸いです。実践しながら増補していきたいと思います。



「キャンペーンロゴマーク」
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のよ
うに健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む
家庭、地域のまなざしを表現しています。
安富 勝弘さん(熊本市)の作品

2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？

くまもと「親の学び」プログラム講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。参加体験型学習とは、講演会や講義のように、講師の話に参加者が一方的に聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり、話し合ったりすることを通じて学びます。

自分の子育てを振り返ったり、他人の話を聞いたりすることをきっかけとして、これまで気づいていなかったことに気づいたり、改めて大切なことを再認識したりすることができます。

☆参加体験型学習の流れ

各プログラムの趣旨に沿って、個人での作業、グループ（ペア）での活動、全体での活動の3段階を組み合わせて展開します。

①個人での作業

与えられたテーマについて考えたり、書き出したりします。グループでの活動の前に行う場合が多いです。

②グループ（ペア）での活動

個人で考えたことを出し合ったり、共同作業をしたりします。

③全体での活動

進行役から説明をしたり、各グループの話し合いで出た意見を共有したりします。

講座の最初と最後に行うことが多いです。

☆参加体験型学習で大切なポイント

ポイント1 主体的な参加

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれ考え、発言をすることによって、これまで気づかなかったことに気づいたり、もともと知っていたことについて、改めて大切であることを再確認したりすることができます。そのためには、一人一人が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要です。

ポイント2 お互いに学びあう

グループ内で意見を出し合ったり、全員で気づきを発表したりすることを通じて、多様な視点や考え方があることに気づき、学ぶことができます。そのためには、お互いの意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、発言を引き出すような進行役からの声かけなどが大切になります。

3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、全体の流れを進めていく「進行役」（「ファシリテーター」ともいう）の役目が大切です。進行役は「講師」とは違い、自分の知識や考えを参加者に伝えることが役目ではありません。

参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が「気づき」を得て何かを学ぶことを助けることが役目です。

このため、専門的な知識や特別な経験がない人でも、以下のようなことに気をつければ、参加体験型学習の進行役になることができます。

☆進行役に求められる3つのこと

(1) 雰囲気づくり

- ・進行役は、自信をもってはっきりした声で、ゆっくりと話す。笑顔が1番。
- ・話し合いの前に、「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は発言しやすく感じる。
- ・発言を強要しない。話せる範囲で話してもらえるとよいことを伝える。

(2) 主体性の尊重

- ・進行役自身の考えを押しついたり、参加者の発言を批判したりしない。
- ・参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はない。一人一人が気づいたことを大切にするように促す。

(3) 流れの調整

①参加者に合わせた進行

- ・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進める。
- ・参加者の様子を見て、じっくりと時間が必要な場合には、用意した内容の全てを行うことにこだわらないほうがよい。
(計画の段階で、時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするか等を考えておくと、その状況になったときに慌てない。)

②テーマに沿った進行

- ・漠然と雑談をするよりも、各プログラムの「テーマ」をはっきり示すことで、より話し合いが深まる。
- ・話題がそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに戻すように心がける。

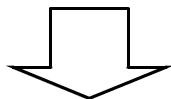
4 講座の基本的な流れ

順	流れと活動	時間	説明							
1	【導入】 ①活動のねらいを知らせる。 ②アイスブレイクをする。	10分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ★ポイント ・活動のねらいをわかりやすく伝える ・場の雰囲気や参加者の緊張を和らげる。 ・次の活動をやりやすくする。 </div> <p>○本講座のキーワードを知らせる。用紙等を書いておき、提示する。プロジェクターを使ってもよい。</p> <p>○簡単なゲームなどで雰囲気や参加者の緊張を和らげる活動を「アイスブレイク」と呼ぶ。</p> <p>○本プログラムで取り上げている活動は、一例であり、</p> <table style="margin-left: 20px; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: none;">◇講座設定時間</td> <td style="border: none;">◇目的</td> <td rowspan="3" style="font-size: 3em; vertical-align: middle; padding-left: 10px;">}</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">◇人数</td> <td style="border: none;">◇場所の広さ</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">◇受講者の構成メンバー</td> <td style="border: none;"></td> </tr> </table> <p>等に応じて、<u>どのアイスブレイクを取り入れるかを考えたり、内容をどう工夫するかを考えたりすることが必要。</u></p> <p>○次の活動をグループで行う場合は、アイスブレイクのゲームでグループを作ると効果的に進行できる。</p>	◇講座設定時間	◇目的	}	◇人数	◇場所の広さ	◇受講者の構成メンバー	
◇講座設定時間	◇目的	}								
◇人数	◇場所の広さ									
◇受講者の構成メンバー										
2	【展開】 ①中心活動をする。 ・個人での活動 ・ペアやグループでの活動 ・全体での活動	40分	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ★ポイント ・やりかたをしっかりと説明する。 ・グループを見てまわり、声をかける。 ・時間を意識する。 </div> <p>○参加者が「正しく答えよう」「変なことを言わないようにしよう」と思うと、発言しにくくなる。</p> <p>○グループでの活動の時、思うように話し合いが進まない場合は、次のような対処法がある。</p> <p>①スムーズに進んでいるグループで出された意見や活動の様子を紹介する（全体の活動を止めて、短時間で行う）</p> <p>②思うように話し合いが進んでいないグループに、進行役（ファシリテーター）がしばらく入り、進行を手助けする。</p>							

順	流れと活動	時間	説明
3	<p>【まとめ】</p> <p>①振り返り・分かち合う。</p> <p>②活動をまとめる。</p> <p>※「家庭教育手帳」の読み合わせ</p> <p>※「くまもと家庭教育10か条」の読み合わせ</p>	10分	<p>☆ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りは必ず入れる。 ・振り返りのポイントをはっきり伝える。 ・時間を意識する。 <p>○活動を通して気づいたことを個人で振り返りシートに記入し、グループで発表しあう。他の受講者の思いや多様な価値観にふれ、これまでの自分を見つめ直し、これからの子育てのための気づきを得ることができる。</p> <p>個人→グループ→全体と広げ、個人の振り返りを互いに共有すると、より学びが深まる。</p> <p>○進行役は、参加者の振り返りと関連づけながら、講座のポイントを伝える。</p> <p>○まとめでは、「家庭教育手帳」や「くまもと家庭教育10か条」を紹介する。必要に応じて受講者に配布したり広用紙に書いておいたものを提示したりしながら、みんなで確認し、意識を高める。</p>

☆講座の受講者、進行役、すべての人が
気をつけること

☆講座の中で知り得た個人情報を他の人にもらすことは
絶対やめましょう。



○講座の始まりや講座終了の時に、受講者に確認しましょう。
もちろん、進行役も知り得た情報はもらしません。
とても大事なことなので、毎回の講座で確認するようにしましょう。